

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000082		
法人名	北海ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム北海ハウスみずほ館 1階ばら		
所在地	江別市あけぼの町51番地13		
自己評価作成日	平成28年7月6日	評価結果市町村受理日	平成28年8月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigyosyoCd=0191000082-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年7月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

北海ケアサービス(株)の理念である「笑顔で、明るく、優しく」を基本としており、全職員で決定したケア目標「私たちは地域とのつながりを保ち、入居者様が日々喜びと幸せを感じられるように、優しい言葉遣いと尊厳の心を込めて支援します。」を目指している。常に個別ケア、尊厳、言葉遣いを意識して関わっている。天気の良い日の散歩を入居者はとても楽しみにしており、花を見たり摘んだり、畑の野菜の成長、収穫した時等、笑顔が見られ会話が弾む。食事は和食中心の献立で国産の新鮮な食材を使用し、美味しいと評判である。誕生日には本人の好きな物を昼食に取り入れ楽しんでいた。看護師が常勤でいるので入居者の健康管理、緊急時の対応も医療機関と密に連携がとれる体制である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

江別市郊外の緑豊かな住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。建物は明るく清潔で、浴室やトイレ、エレベーターなどが使いやすく整備されている。職員は理念をよく理解し、利用者への優しい言葉遣い、人格の尊重が意識されている。サービス評価の作成も職員全員が参加しており、毎月の会議では、事前に職員全員の意見を収集し、効率的で内容のある会議となるよう工夫している。また、職員教育にも力を入れ、定期的な内部研修の開催、外部研修の参加と報告が計画的に行われている。職員の勤務を一方のユニットに限定せず、2ユニット両方に勤務していることも特徴である。地域交流の面では、利用者がごみ拾いや新年会など自治会の行事に参加しており、民謡や音楽、踊り、傾聴など様々なボランティアも頻繁に事業所を訪れている。健康管理や重度化の支援の面では、看護師の職員が常勤して健康チェックや医療機関、家族との連絡などが適切に行われており、事業所のできる範囲での看取りに対応する方針により過去に数名の看取りも行っている。職員全体の意識を高め、適切なサービスの提供を行い、利用者が安心して過ごすことができているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人共通の運営理念は勿論、事業所独自のケア目標を職員全員参加で作成し、毎日の朝礼で全職員が確認し、日々達成するように意識している。	理念とケア目標があり、ケア目標の中に地域密着型サービスを意識した内容を入れている。理念とケア目標は、玄関や各ユニットの共用部分に掲げられ、朝礼の際に確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝の散歩で近隣の方と挨拶をしたり、自治会の協力のもと、救命講習・避難訓練・オレンジラン江別等実施している。幼稚園児が七夕にはみずほ館に来て交流している。地域のボランティアが毎月来て、馴染みの関係になっている。	ごみ拾いや新年会などの自治会行事に利用者と共に参加している。七夕の際は近くの幼稚園児が来訪している。民謡やカラオケ、ギター、傾聴などの地域ボランティアが頻繁に来訪し、利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は外部研修・実践者研修に参加し専門的知識、関わり方も理解している。3年前にえべつ共助ネットワーク(Eネット)が出来、有志により、徘徊者捜索訓練・電話連絡訓練・研修等を実施している。個人の方の登録も増えてきている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況・行事等を伝え、認知症の基礎知識の勉強を行っている。委員の方々と意見交換、体験談を話し合うことでサービス向上につながっている。運営会議録は全家族に送付し次の会議日程を案内している。	運営推進会議は2ヵ月毎に開催され、地域包括支援センター職員、自治会役員、複数の家族、近隣の福祉施設関係者の参加を得て、防災や外部評価、実地指導などのテーマで意見交換している。また議事録を家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは密に連絡をとり、疑問点、わからないことがあれば、市に出向き相談解決している。	地域包括センター職員が運営推進会議に参加するほか、市の福祉課運営指導担当とも頻繁に情報交換している。市内のグループホーム交流会「あおいの会」での講演会やオレンジランを行う際に市と連携を取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待は絶対行わないという意識を高く持ち、外部研修・内部研修で知識を理解している。身体拘束は理解しやすいが、心理的虐待になる言葉遣いは全職員に徹底して周知している。	身体拘束の禁止の対象となる具体的な行為を示したマニュアルを整備し、内部研修などで共有している。現在は身体拘束を行っておらず、過去に短時間ベッド柵を用いた際には家族に説明し同意書を得ている。玄関は夜間のみ施錠しており、出入りがあればセンサーでわかるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修・内部研修参加後、職員会議で禁止語の言葉・行為を全職員が意識している。		

グループホーム 北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加したり、あおいの会(江別グループホームの会)で勉強会を開いたりする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム入居時の契約締結、解約、改定時の説明は利用者が理解するのは難しいが、家族等には理解が得られるよう十分な説明を行い、不安や疑問点に答えられるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	頻繁に訪れる家族には日頃の様子を伝え、気軽に意見・不満・苦情が表出出来るように配慮し、なかなか来れない家族には、手紙を出したり、電話を掛けたり、メールを送信している。2ヶ月に1度「みずほ便り」を送付しており好評である。	家族は平均して月1回程度来訪しており、その際や運営推進会議で意見を聞いている。得られた意見を「支援経過」や「個別日誌」に記載し、共有している。また個人ごとの写真入り「みずほ便り」を2ヵ月毎に作成し家族に送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見や提案、要望を話し合っている。管理者との面談を年2回実施し個々の思いや疑問点、悩み等聞く場を設けている	月2回、両ユニット合同の会議で意見交換している。事前に職員から意見を得て、リーダー会議で検討している。また、年2回、個人面談を行っている。職員はお便りや消耗品管理、備品整備など何らかの役割を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員が楽しく働きやすい環境づくりを心掛けている。職員個々の目標達成に向けての努力、実績、勤務状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひとりでも多くの職員を外部研修に参加させ、受講した職員は会議で報告発表をすることで意識向上になっている。また外部から講師を招き、内部研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年、市内のグループホームでグループホーム交流会、講演会を開催しており、委員の職員は月1回の会議を行っている。また月1回各グループホームの管理者・職員が集まって意見交換を行いサービス向上に繋げている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えを傾聴し、安心できるような受け答えを心掛けています。また、本人の心情を察知し、職員側からも本人が困ったりしていることはないかを聞き、安心して生活出来るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いを設け、利用者が入居してからの過ごし方や家族への連絡方法など確認し合い、良い関係が続くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族、双方にとってどのようなサービスが良いのか検討し、適したサービスが提供出来るように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常生活の中で、利用者が出来ること出来ないことを見極め、本人と職員が共に行える関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的なお便りや、家族の来訪時に職員が利用者の日常を伝えることで、意思の疎通を図り、共に本人を支えていけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の来訪や外出、外泊を通して、これまでの関係が継続出来るように配慮し、家族や友人がまた来訪しやすいように職員からの声掛け、見送りも心掛けています。	5名程度の利用者に学校や宗教関係の友人、知人が来訪しており、一緒に出かける方もいる。買い物に行く大型ショッピングセンターが以前からの馴染みの場所である方も多い。家族と一緒に法事や親戚の家に行く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アクティビティや何気ない会話で利用者同士が関わられるようにしています。コミュニケーションが難しい利用者は職員が寄り添い孤立感を感じないようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、入院先に面会に行ったり、ご家族がいつでも来訪、電話等で相談、支援が行えるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と家族から、希望や意向を聞き、応えるように努めている。困難な利用者は日常生活の中で気づいたことをケアプランに反映している。	言葉で思いや意向の把握が難しい方も表情やしぐさ、過去の経験から把握するようにしている。センター方式のアセスメントシートを作成しているが、情報や更新頻度に個人差が見られる。	センター方式のアセスメントシートについて、定期的な更新や追記、共有しやすい綴り方の工夫などを期待したい。また、生活歴等の情報の充実も期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境を家族から聞き、本人からは日常生活のコミュニケーションなどで把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を把握し、特変があれば記録し、申し送ることで職員が利用者に合わせて支援を行えるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを更新する時は、モニタリングを基に職員会議で話し合い、本人や家族の意向を共有し、担当職員が次のケアプランを作成しやすいようにしている。	6ヵ月または状態の変化に応じて計画の見直しが行われている。月2回のカンファレンスで現状を把握し、更新時はモニタリングをもとに家族の意見も得て会議を行い、計画を作成している。日々の記録は計画目標に沿って記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌にマーカーを引き、日々の状態や変化を記入し、申し送ることによって情報を共有してケアに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今あるものを基にサービス提供を考えるが、時には新たに情報を仕入れ、より良いものしていけるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来訪や自治会も交えての避難訓練などの交流を大切に、利用者が豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関や馴染みの医師による受診の継続を実施している。希望がない場合は提携先の医療機関から訪問診療を受けたり、受診したりしている。	半数の利用者は協力医の往診を月2回受け、その他の利用者はかかりつけ医への通院支援を行っている。看護師の職員が常勤し健康管理や受診記録の作成、家族との情報交換などを適切に行っている。	

グループホーム 北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の様子がいつもと違うことに気付いた時点で、常勤の看護師に報告し、対応する。受診が必要な場合は速やかに提携先の医療機関に連絡し、受診する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して過ごせるよう入居中の様子などを書面で病院に提出している。また、入院途中や退院が近くなった際には、医師からの説明を家族と一緒に聞き、医療関係者と連携を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族が来訪した時などを利用し、常、日頃から本人の状態を伝え、早い段階から重度化や終末期に対する意向を確認している。決定した内容は職員に周知している。	利用開始時に「重度化した場合の対応指針」を説明し署名捺印を得ている。重度化した場合はあらためて意向を文書で確認している。できる範囲での看取りを行う方針とし、過去に5名以上の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時緊急対応マニュアルを基に対応している。また、年1回救命講習を受けており、全職員が2、3年以内には再度受けれるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施し、日中と夜間を想定した訓練を行い、自治会方にも参加して頂いている。地震・水害BCP(事業継続計画)を作成し備えている。	年に2回、昼・夜を想定した避難訓練を実施しており、消防や地域の協力を得ている。地震・水害マニュアルも整備されており、職員の救急救命訓練も毎年行っている。災害時の備品がリストに沿って準備されている。	

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心を込めて支援出来るように、ケア目標を掲げ意識している。個人記録は保管場所に鍵を掛け、プライバシーを守っている。	呼びかけは名字に「さん」づけが基本だが、本人や家族の希望も取り入れて対応し、接遇教育を毎年行っている。個人ファイルも安全に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族からの情報や本人との会話から希望や要望を知る、或いは表情や行動からも汲み取り、自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに声を掛け、体調、気分などその時々様子を気にしながら職員と連携を取り、穏やかに過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を整え、季節に応じた服装を、利用者の意見を聞きながら支援している。		

グループホーム 北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒におかずの盛り付けをしたり、食器拭きをしたりしている。食事の色合い、見た目にも気を付け、食事の時は、同じメニューを利用者と一緒のテーブルで食事をする。	栄養士の職員が、畑の新鮮野菜も活用したバランスの良い献立を作り、利用者と職員と一緒に楽しく食事をしている。誕生日の昼食は寿司など好みの献立や個別に外食や弁当も頼むこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ、食事量を少なくしたり、きざみやトロミを使用して 形態を変えていえる。様々な食材、季節に合った食材を使用し、栄養が偏らないよう努めている。水分量は細かく記録して確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをして口腔ケアを行い、利用者によっては介助をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の仕方、尿量、トイレの回数などを把握し、声掛けやトイレ介入を行い、動作の障害を少しでも取り除くことで失敗を少なくしている。	自立している3名の利用者以外は排泄支援を行っている。「排泄チェック表」は全員の分を記録している。声かけは直接的な表現を避けており、夜間はポータブルトイレやおむつも利用しているが、利用者の気持ちに寄り添って支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維を多く摂取出来るように工夫したり、水分を多めに摂取出来るように声掛けをしている。体操も取り入れている。排便が3日以上ない時は、下剤を追加したり、居室で過ごされている方は、状況に応じて看護師が排便を行うことがある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のその日の体調や気分を把握し、利用者の意思を尊重し、入浴している。	毎日、午後の時間帯で、1人週2回入浴している。シャワーは随時利用できる。好み入浴剤を使用し、希望者には同性介助を行っている。拒否のある方も職員の上手な声かけで入浴できている。誕生日には個別に温泉に行く方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に応じて、午前午後、に臥床する時間を設けて無理なく生活出来るよう配慮している。水分量や居室の温度や湿度などに気を付けて安眠出来る環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別日誌に薬剤情報書を添付し、職員全員が解るようにしている。薬が変更された場合や頓服薬を服用した際は、変化があれば個別日誌に記載し、申し送りを行い確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることを把握し、無理なく楽しく出来る役割や楽しみごとを見つけ、日々の生活を支援している。カンファレンスなどで利用者にあったレクリエーションや行事を提案し合い、楽しめるよう努めている。		

グループホーム 北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの心身状態を把握し、散歩や外食、温泉などを取り入れている。外出希望があれば、本人の状態などを考慮し、外出出来るように努めている。家族や友人と外出することもある。	天候の良い時期には、9:00～10:00の時間帯で、車椅子の方も含めて事業所の周辺を毎日でも散歩できる。花見やドライブ、温泉入浴などの行事や大型店での買い物、地域のグループホーム交流会もある。冬場の散歩は積雪の多さと介護度の上昇により難しくなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、お金を持つようにしている。管理出来ない利用者は、要望を聞き、職員や家族が代行で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望があった時、心身状態を考慮し、電話を掛けるか掛けないかを支援している。手紙が届いた時は本人に渡し、その後は希望に応じ対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除、細やかな温度管理、環境整備を行っている。テレビやラジオの音量にも注意を払い、その日の天候に合わせ、明るさを調整し居心地よく過ごせるよう努めている。各ユニットの掲示板に、その月の季節に合わせ、花や装飾をして、季節感を取り入れている。	共用空間は、白を基調とした清潔で落ち着いた造りである。窓からはパークゴルフ場の緑が広がり、採光や音量が程よく調整されており、職員の声のトーンも静かで優しく、利用者は居間のテーブルでゆったりと寛いでいる。廊下の掲示板には写真等が程よく掲示され室温も適切に管理されており、心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人用の椅子や三人掛けのソファが設置しており、一人で過ごしたり、利用者同士と一緒に座ったりと自由に過ごすことが出来るようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族にとって、使い慣れた物や馴染みの物があり、配置も希望を取り入れている。家族の写真や新聞の切り抜きなど、一人ひとり自由に飾りつけをして過ごしている。	ベッドは備え付けで、室内には洗濯物掛けも利用できる造りとなっている。利用者は夫々好みの家具や家族の写真を飾り、落ち着いて寛げる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのモニタリングとカンファレンスを行い、その結果を基に自立支援、介助などを行い、安全で自立した生活を送れるよう支援している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000082		
法人名	北海ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム北海ハウスみずほ館 2階ゆり		
所在地	江別市あけぼの町51番地13		
自己評価作成日	平成28年7月6日	評価結果市町村受理日	平成28年8月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigyosyoCd=0191000082-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年7月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

北海ケアサービス(株)の理念である「笑顔で、明るく、優しく」を基本としており、全職員で決定したケア目標「私たちは地域とのつながりを保ち、入居者様が日々喜びと幸せを感じられるように、優しい言葉遣いと尊厳の心を込めて支援します。」を目指している。常に個別ケア、尊厳、言葉遣いを意識して関わっている。天気の良い日の散歩を入居者はとても楽しみにしており、花を見たり摘んだり、畑の野菜の成長、収穫した時等、笑顔が見られ会話が弾む。食事は和食中心の献立で国産の新鮮な食材を使用し、美味しいと評判である。誕生日には本人の好きな物を昼食に取り入れ楽しんでいた。看護師が常勤でいるので入居者の健康管理、緊急時の対応も医療機関と密に連携がとれる体制である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人共通の運営理念は勿論、事業所独自のケア目標を職員全員参加で作成し、毎日の朝礼で全職員が確認し、日々達成するように意識している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝の散歩で近隣の方と挨拶をしたり、自治会の協力のもと、救命講習・避難訓練・オレンジラン江別等実施している。幼稚園児が七夕にはみずほ館に来て交流している。地域のボランティアが毎月来て、馴染みの関係になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は外部研修・実践者研修に参加し専門的知識、関わり方も理解している。3年前にえべつ共助ネットワーク(Eネット)が出来、有志により、徘徊者捜索訓練・電話連絡訓練・研修等を実施している。個人の方の登録も増えてきている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況・行事等を伝え、認知症の基礎知識の勉強を行っている。委員の方々と意見交換、体験談を話し合うことでサービス向上につながっている。運営会議録は全家族に送付し次回の会議日程を案内している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは密に連絡をとり、疑問点、わからないことがあれば、市に出向き相談解決している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待は絶対行わないという意識を高く持ち、外部研修・内部研修で知識を理解している。身体拘束は理解しやすいが、心理的虐待になる言葉遣いは全職員に徹底して周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修・内部研修参加後、職員会議で禁止語の言葉・行為を全職員が意識している。		

グループホーム 北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加したり、あおいの会(江別グループホームの会)で勉強会を開いたりする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム入居時の契約締結、解約、改定時の説明は利用者が理解するのは難しいが、家族等には理解が得られるよう十分な説明を行い、不安や疑問点に答えられるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	頻繁に訪れる家族には日頃の様子を伝え、気軽に意見・不満・苦情が表出出来るように配慮し、なかなか来れない家族には、手紙を出したり、電話を掛けたり、メールを送信している。2ヶ月に1度「みずほ便り」を送付しており好評である。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見や提案、要望を話し合っている。管理者との面談を年2回実施し個々の思いや疑問点、悩み等聞く場を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員が楽しく働きやすい環境づくりを心掛けている。職員個々の目標達成に向けての努力、実績、勤務状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひとりでも多くの職員を外部研修に参加させ、受講した職員は会議で報告発表をすることで意識向上になっている。また外部から講師を招き、内部研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年、市内のグループホームでグループホーム交流会、講演会を開催しており、委員の職員は月1回の会議を行っている。また月1回各グループホームの管理者・職員が集まって意見交換を行いサービス向上に繋げている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えを傾聴し、安心できるような受け答えを心掛けている。また、本人の心情を察知し、職員側からも本人が困ったりしていることはないかを聞き、安心して生活出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いを設け、利用者が入居してからの過ごし方や家族への連絡方法など確認し合い、良い関係が続くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族、双方にとってどのようなサービスが良いのか検討し、適したサービスが提供出来るように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常生活の中で、利用者が出来ること出来ないことを見極め、本人と職員が共に行える関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的なお便りや、家族の来訪時に職員が利用者の日常を伝えることで、意思の疎通を図り、共に本人を支えていけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の来訪や外出、外泊を通して、これまでの関係が継続出来るように配慮し、家族や友人がまた来訪しやすいように職員からの声掛け、見送りも心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アクティビティや何気ない会話で利用者同士が関われるようにしている。コミュニケーションが難しい利用者は職員が寄り添い孤立感を感じないようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、入院先に面会に行ったり、ご家族がいつでも来訪、電話等で相談、支援が行えるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と家族から、希望や意向を聞き、応えるように努めている。困難な利用者は日常生活の中で気づいたことをケアプランに反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境を家族から聞き、本人からは日常生活のコミュニケーションなどで把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を把握し、特変があれば記録し、申し送ることで職員が利用者に合わせて支援を行えるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを更新する時は、モニタリングを基に職員会議で話し合い、本人や家族の意向を共有し、担当職員が次のケアプランを作成しやすいようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌にマーカーを引き、日々の状態や変化を記入し、申し送ることによって情報を共有してケアに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今あるものを基にサービス提供を考えるが、時には新たに情報を仕入れ、より良いものしていけるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来訪や自治会も交えての避難訓練などの交流を大切にし、利用者が豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関や馴染みの医師による受診の継続を実施している。希望がない場合は提携先の医療機関から訪問診療を受けたり、受診したりしている。		

グループホーム 北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の様子がいつもと違うことに気付いた時点で、常勤の看護師に報告し、対応する。受診が必要な場合は速やかに提携先の医療機関に連絡し、受診する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して過ごせるよう入居中の様子などを書面で病院に提出している。また、入院途中や退院が近くなった際には、医師からの説明を家族と一緒に聞き、医療関係者と連携を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族が来訪した時などを利用し、常、日頃から本人の状態を伝え、早い段階から重度化や終末期に対する意向を確認している。決定した内容は職員に周知している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時緊急対応マニュアルを基に対応している。また、年1回救命講習を受けており、全職員が2、3年以内には再度受けれるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施し、日中と夜間を想定した訓練を行い、自治会方にも参加して頂いている。地震・水害BCP(事業継続計画)を作成し備えている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心を込めて支援出来るように、ケア目標を掲げ意識している。個人記録は保管場所に鍵を掛け、プライバシーを守っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族からの情報や本人との会話から希望や要望を知る、或いは表情や行動からも汲み取り、自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに声を掛け、体調、気分などその時々様子を気にしながら職員と連携を取り、穏やかに過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を整え、季節に応じた服装を、利用者の意見を聞きながら支援している。		

グループホーム 北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒におかずの盛り付けをしたり、食器拭きをしたりしている。食事の色合い、見た目にも気を付け、食事の時は、同じメニューを利用者と一緒にテーブルで食事をする。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ、食事量を少なくしたり、きざみやトロミを使用して 形態を変えていえる。様々な食材、季節に合った食材を使用し、栄養が偏らないよう努めている。水分量は細かく記録して確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをして口腔ケアを行い、利用者によっては介助をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の仕方、尿量、トイレの回数などを把握し、声掛けやトイレ介入を行い、動作の障害を少しでも取り除くことで失敗を少なくしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維を多く摂取出来るように工夫したり、水分を多めに摂取出来るように声掛けをしている。体操も取り入れている。排便が3日以上ない時は、下剤を追加したり、居室で過ごされている方は、状況に応じて看護師が排便を行うことがある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の体調や気分を把握し、利用者の意思を尊重し、入浴している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に応じて、午前午後には臥床する時間を設けて無理なく生活出来るよう配慮している。水分量や居室の温度や湿度などに気を付けて安眠出来る環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別日誌に薬剤情報書を添付し、職員全員が解るようにしている。薬が変更された場合や頓服薬を服用した際は、変化があれば個別日誌に記載し、申し送りを行い確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることを把握し、無理なく楽しく出来る役割や楽しみごとを見つけ、日々の生活を支援している。カンファレンスなどで利用者にあったレクリエーションや行事を提案し合い、楽しめるよう努めている。		

グループホーム 北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの心身状態を把握し、散歩や外食、温泉などを取り入れている。外出希望があれば、本人の状態などを考慮し、外出出来るように努めている。家族や友人と外出することもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、お金を持つようにしている。管理出来ない利用者は、要望を聞き、職員や家族が代行で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望があった時、心身状態を考慮し、電話を掛けるか掛けないかを支援している。手紙が届いた時は本人に渡し、その後は希望に応じ対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除、細やかな温度管理、環境整備を行っている。テレビやラジオの音量にも注意を払い、その日の天候に合わせ、明るさを調整し居心地よく過ごせるよう努めている。各ユニットの掲示板に、その月の季節に合わせ、花や装飾をして、季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人用の椅子や三人掛けのソファが設置しており、一人で過ごしたり、利用者同士と一緒に座ったりと自由に過ごすことが出来るようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族にとって、使い慣れた物や馴染みの物があり、配置も希望を取り入れている。家族の写真や新聞の切り抜きなど、一人ひとり自由に飾りつけをして過ごしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのモニタリングとカンファレンスを行い、その結果を基に自立支援、介助などを行い、安全で自立した生活を送れるよう支援している。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム 北海ハウスみずほ館

作成日：平成 28年 8月 15日

市町村受理日：平成 28年 8月 16日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	23	言葉で思いや意向の把握が難しい方も表情やしぐさ、過去の経験から把握するようにしている。センター方式のアセスメントシートを作成しているが、情報や更新頻度に個人差が見られる。	利用者側の視点を活かし、センター方式の活用との充実と介護計画に連動した日々の記録「個別日誌」の変化等記録する。	ケアプラン更新時にセンター方式B-3(私の暮らし方シート)D-2(私がわかること・私がわからないことシート)の見直しを実施し、アセスメントシートの充実を行い意識を高め次回に繋げる。	24ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。